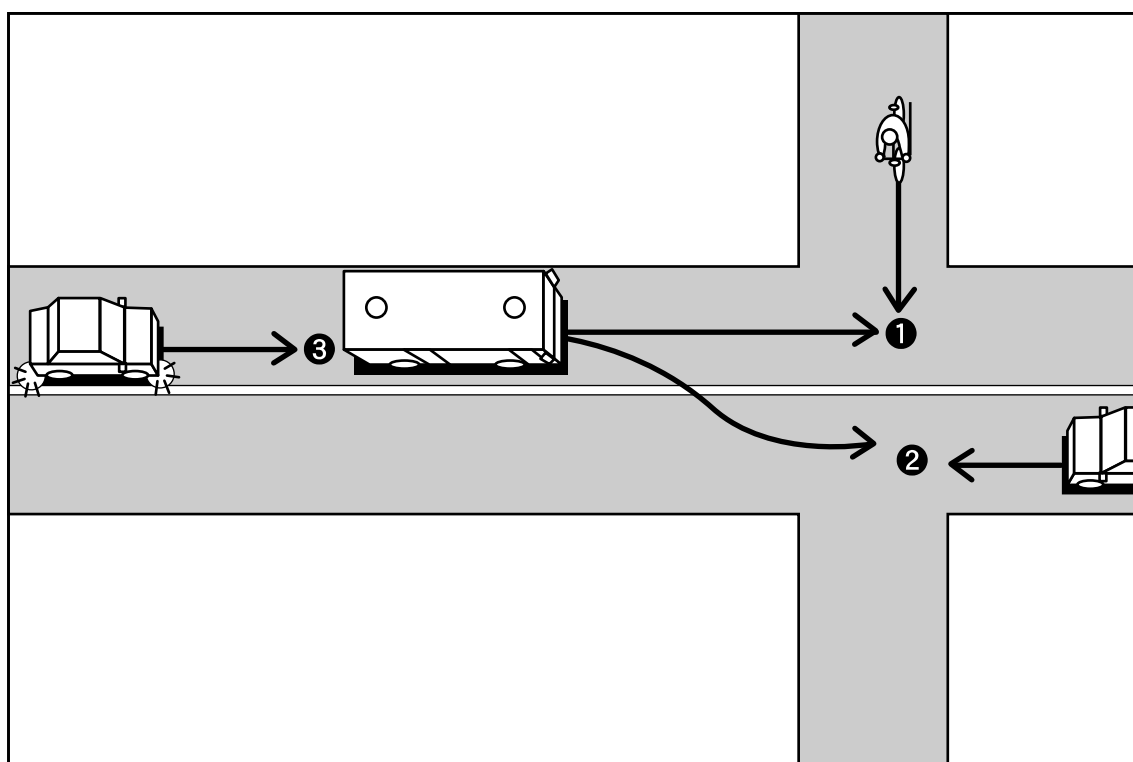


〔バス3〕住宅街の走行



1. 主な危険要因の例

- ① 左側の脇道から自転車が接近しており、このまま走行すると、自転車と衝突する危険がある。
- ② 自転車を避けようとして右側にふくらむと、センターラインをはみ出して対向車と衝突する危険がある。
- ③ 急停止すると、後続車に追突される危険がある。

2. 安全運転の例

- ① 左側から接近してくる自転車の動向に注意しながら、スピードを落とす。
- ② 自転車に停止する気配がないときは、徐行または一時停止して自転車を先に行かせる。

3. 乗務員指導のポイント

- ① 住宅街では、あらかじめスピードを落として走行するよう指導する。
- ② 住宅街の見通しの悪い交差点などでは、自転車が飛び出してくることも多いので、その点をよく認識させるとともに、次のような自転車の行動特性について理解させる。
 - ・一時停止が必要な場所でも一時停止せずに飛び出してくる。
 - ・後方の確認もせず、合図もしないで急に進路変更してくる。
 - ・一方通行を逆行してくる。
 - ・学校の下校時間帯では、数台の自転車が並進し道路を塞いだり、自転車同士が接触して転倒することがある。